

スイス連邦工科大学でのコンピュータ利用体験

工学部土木建設工学科 榎谷 浩

金沢大学情報処理センターより船田先生を通じスイス留学中（平成4年3月より平成5年3月までローザンヌスイス連邦工科大学に滞在）の大学での電子計算機状況について何かというお話がございまして、あまり利用しなかった（できなかった）私としては計算機に関する知識に乏しいこともあり非常にとまどったのですが、計算機についてのことならなんでもよいとのことで、ここではスイスの計算機周辺のことについて思い浮かぶまま報告させていただきます。

まず、大学で自分のオフィスが与えられた日、机の上に Macintosh がすぐ目に止まりました。とりあえずこれと言って仕事もなく、コンピュータは自由に利用してよいとのことでしたので、Macintosh は日本で使用したことがありませんでしたが、とにかく触ってみました。システム自体と多くのソフトがフランス語バージョンで、キーボードがスイス用でアルファベットの位置が少し違いアクセントとウムラウト文字があるため、当初かなり苦しみましたが、その内に何となくだんだんわかるようになってきました。

すこし慣れてきたころ、Emailで日本と通信しようと思い、同僚たちに相談して大型計算機で使えるということで研究室のコンピュータを利用しました。研究室は日本の学科ぐらいの規模ですのできれいな専用の部屋がありそこで端末に向いました。機種は覚えておりませんが、確か皆 Vax Aとか Vax Bとかいっていたような記憶があります。研究室にはコンピュータの専門家があり、彼と私2人で赤子のような英語で何とか使用方法を覚えしました。しかし、詳細な説明やコンピュータの利用に関する情報はフランス語でしたので後は体験で覚えるしかなくだいぶ歯がゆい感じでした。

その内にブラジルから来ている日系の研究者と知合いになりEmailの使用法の詳細について知ることができました。話は変わりますが、彼は私が日本から持っていった日本語ワープロソフト、特に漢字変換に非常に興味を示し、研究室のIBMのパソコンに何とか移植しようと何度か試みましたがだめでした。彼は両親や日本の親戚の人は日本語しか読めないの日本語の手紙を書くのに非常にためどり何とかしたいというのがその理由でした。Windowsの日本での普及により彼の望みもブラジルでかなうだろうと思っています。

私のスイスでの研究は実験が中心で大体はIBMのパソコンで用は足りましたが、途中で構造解析と時間のかかる数値計算の必要が生じました。私の居た研究室では、数値計算の技術者以外はコンピュータの言語を使用する人はいないようでした。しかし、構造解析については、幸い他の研究室の若い研究者の助けによりEWSで汎用コードにより処理できました。数値計算は、机の上のMacintoshより大型計算機にアクセスして試みましたが、そのバッチ処理に丸1日かかること

がわかり、スーパーコンピュータ（クレイ社）の利用を試みました。私の周囲にはスーパーコンピュータの利用者は1名しかおらず、彼は汎用ソフトだけの利用者だったので、しかたなく私の知っている限りのコマンドを使って試行錯誤いたしました。何とかFortranのプログラムの実行までできるようになりましたが、数値結果のパソコンへの転送にトラブルが多く残念ながら目的の結果を得るまえに時間切れで日本へ帰って来ました。

私は現在、このような体験を通じ国や機種が異なってもほとんど支障なくコンピュータの使用ができるようになれば私のようなコンピュータ音痴には特に便利と強く感じています。また、現在日本では研究者が研究その他でコンピュータを利用する場合、研究の構想、具体化、プログラミングそしてコンピュータの管理それら全てを行う場合が多く、これが研究体制の長所（一人で全てやろうと思えばできる。いろいろな仕事への理解が深くなる。毎日の仕事に変化に富んでおり退屈しないなど）でもあり、短所（ある特定の仕事に集中しにくい、管理を怠るとコンピュータは役にたたない、研究分野の勉強よりもコンピュータの知識獲得に時間が多くとられる。）と感じています。このような意味でさらにどのコンピュータでも人間に優しいしかも便利な利用形態になるよう強く望みます。

まとまりのない報告となりましたが、今後外国でコンピュータを利用される方や不特定の人を対象としたコンピュータ利用を考える上で少しでも参考になれば幸いと思っております。



スイス工科大学の研究室にて